「陰謀団」敗退の宇宙的見通し（Ⅱ）

カインの血統――地球外人の血筋？

David Wilcock
October 27, 2014

【訳者注】「カインはアダムの子でなく、ルシファーの子だった」というトピックは、我々自身とこの世界の正体を問う問題であり、キリスト教系の宗教をもつ多くの人々の関心の的のはずである。しかしこれが今、宗教を越えた普遍的な問題として、人類上まれな大覚醒・大革命の問題として、我々に突きつけられているというのがウィルコックの立場である。彼自身の次のような言葉を引用するのが、おそらく一番手っ取り早いだろう――

> 「否定の集団的壁は崩れ落ちるだろう。我々すべては“快適ゾーン”から移動させられ、新しい真実を自明の事実として受け入れるように強いられるだろう。
> 多くの人々がこれによって心身動転することであろう。それはちょうど、あなたが部屋に入っていき、あなたの愛する人が別の人物とベッドにいるのを発見するのに近いであろう。
> 我々の神、宇宙の善、またこの人生の感覚全体が、根本から揺らぐだろう――そして新しい洞察が要求されるだろう。」

歴史のサイクルは短い論文で十分に論ずることはできない

第１部で論じたように、歴史は驚くべき正確さで繰り返している――2160 年とか、その 4 分の１の 539 年といったサイクルで。

黄道十二宮の４分の１サイクルは、“理想的には”2160 を 4 で割った 540 だが、1 年を削ることによって、なぜか計測可能なデータとぴったり合うということである。

これは、一定の目的をもつように見える謎である――7 年というサブサイクルがその中に完全に収まるように。

1960 年代のフランスの学生蜂起は、ジャンヌ・ダルクを取り巻く出来事を、正確に 539 年後に繰り返した――**ほとんど日まで正確に**。

この学生蜂起は 8 百万の労働者を鼓舞して、無期限ストを起こさせ、フランス政府をほとんど引き倒し、多くの他の反乱を世界的に刺激した。

驚くべきことに、フランスの占星学者ミシェル・ヘルマーは、この出来事を、それが起こる数年前に、ほとんど日まで正確に予言した――フランスのサイクルの繋がりを突き止めることによって。

９・11 もまた、1990 年代終末と 2000 年代初めの、少なくとも 6 件の一連の出来事の一つが、1400 年代のヨーロッパ史において、1462 年を挟んでその前後に起こったことの、深い、正確な繰り返しとして起こったものである。

もし歴史を、線でなくサイクルとして見るならば、これらの出来事は、同じ 539 年の車輪上に互いに重なり合っている――そして同じ力が、再び我々に影響を及ぼしている。

一つの例として、クリントンが Paula Jones スキャンダルで、85 万ドルの罰金刑を受けたのが、彼の前のサイクルで、クリントンに相当する Johannes von Baysen が死んで 4 日以内のことだった。

これだけでは何の意味もないであろう。それが大きな意味をもつのは、フォン・バイゼンが非常によく似た時代状況下で、きっかり 539 年の間隔をおいて、非常によく似たことをしたという事実を知ったときである。

再び言うが、これこそ、きちんと説明するには 500 ページを要する理由である。十分に科学的な議論をしようとすれば、それ以下のページでは不可能である。

これは人を興奮させる問題だ

これがこれほど人を興奮させるのは、今日、世界のニュースで我々が目にするあらゆる混乱が、台本に書かれた、知的なデザインの一部であり、それがハピーエンドに終わるということである。

歴史はランダムなものでは全くない。我々すべてが神秘的に一つの台本に従っている。この台本の作者は、愛する、超知性をもつ創造者であることを、私は有無をいわさず論証した。

この同じ創造者が、究極的に我々すべてと同じアイデンティティを共有する。すべての世界で起こる経験の目的地は、この本質と再会することである。

その道中で、いかに、我々のある者はネガティブな役割を演ずるように影響され、一方、大多数の者は生まれつきポジティブであるかを、サイクルが明らかにしていく。

そうは言いながら、我々のすべては、「一者」へ帰る我々の旅で、最後にはポジティブにならなければならない。それは重力の法則のように、不可避で止めることができない。

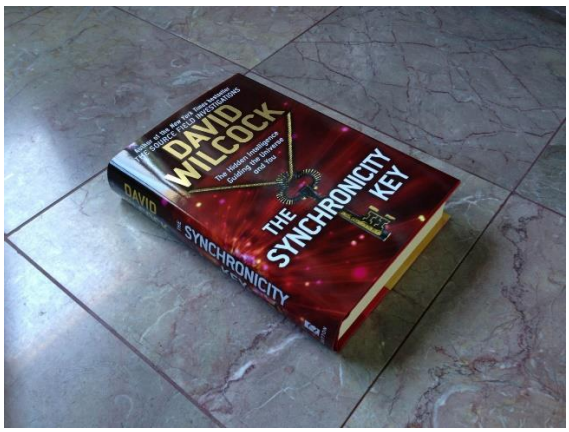
我々は何度も何度も、一つのサイクルから次のサイクルへと再受肉を続ける――同じ顔と性格の特徴を保持しながら。

もし我々が自分の過ちから学ぶなら、我々は霊的成長を果たすことができ、それは究極的に、

卒業して、アセンションとして知られる人間の次の進化段階へ進むことである。

それはかなりのスペースを要する

再び言うが、この物語は説明するのに 500 ページを要する――だから私は、*The Synchronicity Key* を読むことなく、これを一蹴しようとするような人のために、ここで再び同じことを繰り返すつもりはない。



メソポタミアのシュメール文化にまで遡って、記録された歴史のすべては、これら同じパターンに従っている――アナトーリ・フォメンコ博士の科学的研究によれば。

面白いことに、フォメンコ博士は、彼が発見した時間の間隔に“聖なるサイクル数”が現れていることを――それが明らかであったにもかかわらず――理解さえしていなかった。

完全な物語が現れてくるのは、我々がフォメンコのデータを、ミシェル・ヘルマーやフランソワ・マソンのような、フランスの占星学者の仕事と結びつけるときである。

これは常識になりつつあり、すでにそうなっていた文明もある

時間が経てば、私はこの基本的な自然法則の知識は、ガリレオやコペルニクスやニュートンの発見と同じく、日常的な常識になっていくと思う。

他の文明がすでにその地点にまで達し、いろんな異なった方法で、我々のために手がかりを残してくれていたのかもしれない。

その証拠はあまりにも膨大で、多次元的で、相互につながっているから、懐疑論者がこれを攻撃しようと思えば、人格攻撃によってデータを無視するより方法がない。

懐疑論者のカール・セーガン流モットーが「並でない主張は、並でない証拠を要求する」ということなら、これは並でない証拠が与えられている一つのケースである。

7の77倍

他の文明――たぶん古代文明――がこれらの自然サイクルを知っていて、今日、我々がこれを再発見するように手がかりを残した、などということがあり得るだろうか？

その答えを求めていけば、どんな手がかりが見つかるだろうか？

忘れてならないのは、黄道十二宮の4分の1サイクルが、9・11へのそのつながりを含めて、非常に強力なことが判明したことである。

539年は、77年が7グループのサイクル、すなわち7 x 77である。これは実際、聖書に出てくる――2つの関係なさそうな場所に。

聖書の言及箇所

ナンバー・コード「7の77倍」が聖書に強く示されているのは、イエスがこの神秘的なたとえを語るときである（http://biblehub.com/matthew/18-22.htm）――

［あなたの兄弟を許すのは］7 回ではなく、77 回だ。――マタイ 18:22

7 の 77 倍のコードは創世記にも現れる――

もしカインが 7 回復讐されたなら、レメクは 77 回である。――創世記 4:24

聖書には、レメク（Lamech）の 2 つの類似のバーションがある。一人のレメクは、この言葉でいわれている、ノアの父である。
（http://en.wikipedia.org/wiki/Lamech_%28father_of_Noah%29）

もう一人のレメクは、カインの 6 代目の息子である。
（http://en.wikipedia.org/wiki/Lamech）

そして、これから見るように、**カインはルシファーの息子**である可能性が大きい。

それぞれの系統の名前はよく似ていて、いくつかの場合、音声スペルの区別にすぎないから、両方の系統に現れる Lamech は、十分に同一人物でありうる――

2 つの聖書アダム系統の比較

創造系統：	Cain 系統：
	・Adam
	・Seth
・Adam	・Enos
・Cain	・Kenan
・Enoch	・Mahalalel
・Irad	・Jared
・Mehujael	・Enoch
・Methusael	・Methuselah
・Lamech	・**Lamech**
・Tubal-cain	・Noah
	・Shem

ここから不思議な謎が生ずる――実はこのいくつかに。結局、我々が手にするのは、前より明らかになった「陰謀団」の姿である。

カインの血統

「陰謀団」のメンバーで最高レベルにある人々は、自分たちをカインの子孫だと信じている。

我々はこのことを、さまざまの異なった手段によって知った――一部はインサイダーたちから、また一部は利用可能な調査によって。その意味深さは、時と共にますます明らかになってきた。

「陰謀団」の神秘宗教では、ルシファーは非常に現実的な、レプティリアン種のヒューマノイドで、他の“落ちた天使たち”のわずかの仲間と共に、かろうじて地球にたどり着いた。

彼らは壮大な宇宙戦争に生き残った者たちであった。残った者はほとんどいなかった。彼らの破壊された船あるいは船たちが、ここに墜落した。そして彼らはこの地に囚われることになった。

ルシファーと彼の仲間たちは、したがって、宇宙船に乗ってここに衝突着陸し、ほとんど絶滅に追い込まれた、強力な地球外人（ET）と見られている。

飛行機や飛ぶ機械が、ルシファーのシンボルとして、「陰謀団」によって恒常的に用いられているのはそのためである。

遡って、Olmpics 2012: A Mithratic Illuminati Ritual? をご覧になれば、そのもっと詳しい情報が分かる――ここに写真のある“北の天使”のような記念碑を含めて。
http://divinecosmos.com/start-here/davids-blog/1074-olympicsilluminati

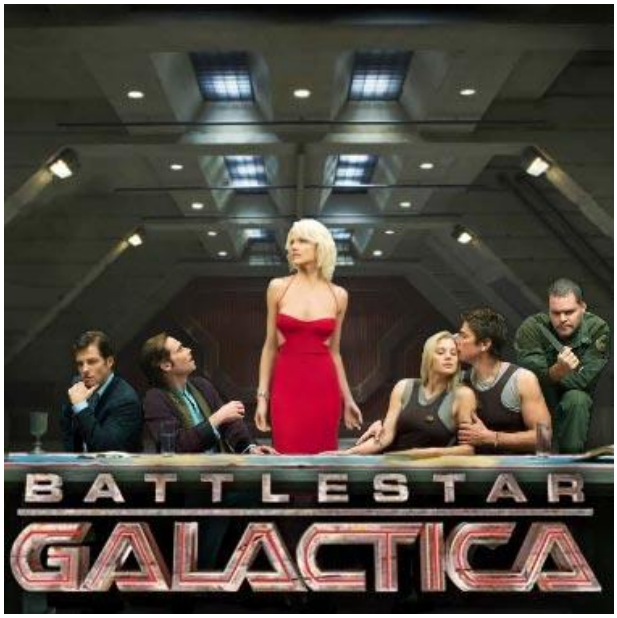
このレプティリアン（爬虫類）種人間の子孫は、彼らに似てはいなかった。彼らの固有の特徴は、メンデルの遺伝的交配によって失われていった。

オリンピックの祭典でもまた、半ば爬虫類、半ば人間のダンサーを登場させ、我々すべてが共有すると彼らが信ずる起源をほのめかしていた。

Battlestar Galactica を忘れないでほしい

1980 年代初めの、オリジナルの *Battlestar Galactica*（宇宙空母ギャラクティカ）シリーズは、面白い物語を出発させた――しかし完結しなかった。

インサイダーとか「陰謀団」メンバーでない多くの人々は、ポスターのキリスト教的な比喩に動揺した――だが彼らはその意味を理解しなかった。



この「陰謀団」の物語は、より新しい『ギャラクティカ』シリーズで正確に再話された。

ぎりぎりの最後で、敗れた文明の敗残の者たちが地球に衝突着陸する――彼ら自身の古代の宗教的予言を実現させて。

地球上に元からいた人間たちは、彼らがすでに高度な科学的知識を携えてやってきたとき、まだ洞窟人間の段階だった。

『猿の惑星』も同じメッセージを繰り返す

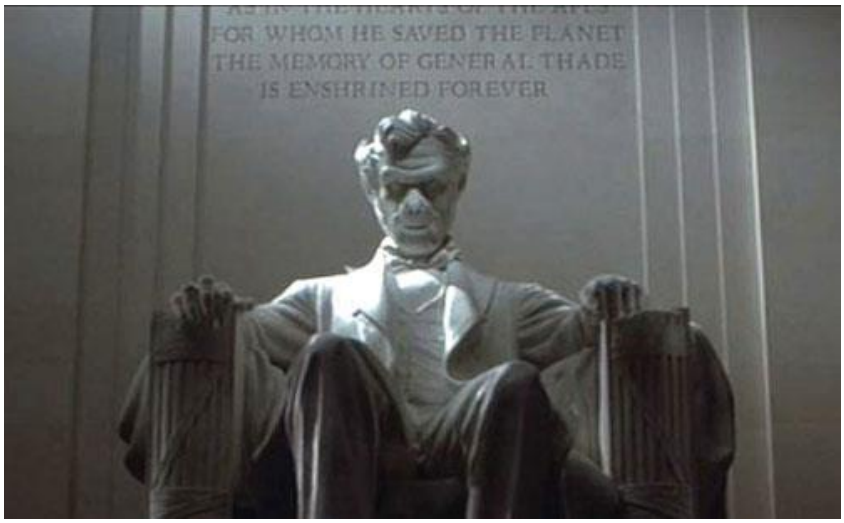
もう一つの非常によく似た、1960 年代から始まり、ずっと新作が出続けている映画シリーズは、『猿の惑星』である。

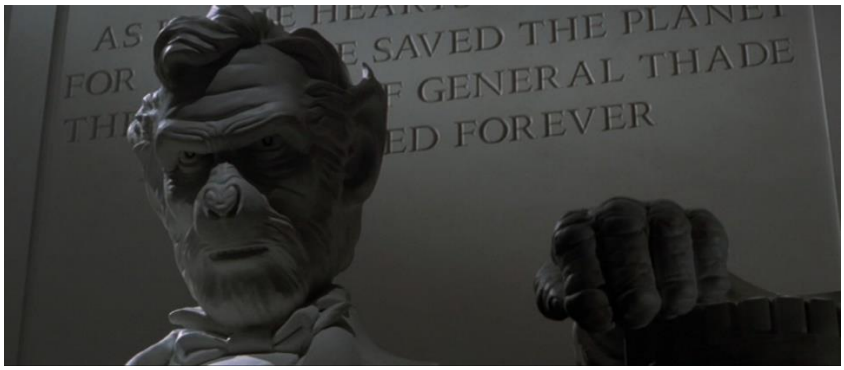
「陰謀団」のメンバーは自分たちを、他所から来た、神のような人間と考えている――我々残りの者は、カルト宗教をつくり上げた劣った猿にすぎない。

2001 年の新作では、マーク・ワールバーグの人物が地球へ無事に返ってきたように見えた後、最後の非常に魅力的なシーンがある。

すべてのタイムラインが変わってしまった。人類は今、猿として描かれている――そして宇宙船から出てきた男、マークは、我々と同じ人間に過ぎなかった。

この映画の製作者たちは、それまでに、リンカーン記念堂に坐るリンカーンを猿として描くことによって、ある怒りに満ちた、警察のような声明を発した。





このような映画は「陰謀団」のメンバーに対して、インサイド・メッセージを伝えるもので、彼らは人間以下の動物の間に生きている神々だという考えを補強している。

奴隷を解放しようとしているリンカーンは、自分の同類を自由にしようとする一匹の猿になる。

多くの「陰謀団」メンバーは、このプロパガンダを信じていない。しかし警告者の Svali が指摘したように、彼らは、もしこのグループを逃げ出そうとすれば、殺されるだろう。

しかしそれでも、スヴァーリが言ったように、もし彼らに自由になるチャンスがあれば、このグループからの“集団脱走”があるだろう。

遺伝的交配

我々が何年も前から報告しているように、より高いレベルでは、軍産複合体の誰もが、ある大きな秘密を知っている。

銀河系全体、いたるところに人間が住んでいる。

彼らは我々に対し、いまだに自らの存在を公然と告げていないが、それは彼らが“第一指令”（Prime Directive）に従わなければならないからである。

とはいえ彼らは、我々が最初にここにきて以来、不定期に行ったり来たりしている。

そこに、あからさまなディスクロージャーはないものの、*Guardians of the Galaxy* は、驚嘆すべき視覚像によって、我々をより大きな全体に慣れさせてくれる、もう一つのマーベル映画である。

究極的に、ひとたび真理を手にするならば、**地上のあらゆる人間が、混じった人間 DNA をもつハイブリッド**であることが分かってくるだろう。

これは、我々がディスクロージャーの過程で適応しなければならない、最大の“学習曲線”の一つで、それはすぐにも必要になってくるだろう。

他の世界からきた人間たちは、たとえ一見して我々と全く異なった者たちでも、我々と交配することができ、多くの機会にそうしてきた。

これは私のオンデマンド TV 番組 Wisdom Teachings で、頭がい骨などを含む様々な科学的データポイントによって、広範囲に議論されている。
http://www.wisdomteachings.com/

我々の DNA は普遍的な青写真であるようだ。これは私が著書と Wisdom Teachings の両方で、科学的に論じている。
http://www.wisdomteachings.com/

再び、これは並ではない主張である。そしてその科学的証拠も同じくらい並ではなく、かつ膨大である。

「秘密の宇宙プログラム」とよく呼ばれるプログラムで働いている、高レベルのインサイダーの間では、人間の形は一つの銀河的標準として知られている。

ディスクロージャーは「陰謀団」の宗教物語を打ち壊すだろう

どうして「陰謀団」はディスクロージャーに反対するのか、その答えの一つは、この地球にやってきた唯一の ET は彼らの物語にある“落ちた天使たち”だけだという神話が、それによって崩れるからである。

これがさらに、グループの結束力を作り出す彼らの能力を弱めることになる。

人々のグループを、これほどの統制力のもとに維持するためには、彼らが地上の唯一の真のエリートだと信じこませなければならない。

彼らの信仰体系では、ストーンヘンジやピラミッド等々を建てたのは、彼らの祖先だけである。

彼らがその神々である。彼らは神々の子孫である。それは歴史上一度だけ、一つのグループによって起こったものだ。

彼らは、古代文明が行ったすべてに功績があるのだ。

多数の ET グループがここへ行き来していて、ここに不時着したのでなく、世界宗教をここで創造したのだという事実を、ひとたび我々が確認するなら、話は非常に違ったものになる。

「陰謀団」の士気はすでに十分に低下している。ひとたび、彼ら自身の壮大な、宗教的歴史信仰がディスクロージャーによって潰えたとき、彼らは自分が騙されていたと悟るだろう。

カインはアダムの子ではなかった

「陰謀団」が自分をそういうものだと信じていることが分かったとき、多くの一見、神秘的で奇怪なパズルのピースが合いはじめる。

「陰謀団」は聖書の出来事を、創世記からノアの洪水まで含めて、全く文字通りに受け取っているが、彼ら特有の興味あるスピンを利かせている。

大洪水で失われた陸地とは、ET 人間たちの植民地だったアトランティス文明だと信じられている。

そこで、Elohim（ヘブライ人の神、神々）すなわち、ポジティブな ET たちが、アダムとして知られる土着の人間を生み出そうとした。

しかし、蛇に似た人間であるルシファーは、決して地上のどんな女とも交配しないというエロヒムとの約束を破ることによって、これを妨害した。

陰謀団の最大の秘密の一つ

「陰謀団」は、カインはルシファーの子であり、エバがエデンの園で「リンゴをかじった」とき、この「蛇」によって妊娠させられたと信じている。

アベルはアダムの息子、カインはルシファーの息子である。これは「陰謀団」の最大の秘密の一つである。

この小さな、強力な、秘密主義グループの中で育つ子供たちは、非常に幼い時からこれを教えられる。

我々は今、「終わりの日」にいると彼ら自身が考えているので、彼らはこれらの真理すべてを公衆に開放しようとしている――象徴的な形で。

映画 *Noah* は、「陰謀団」が彼ら自身の独自なレンズで歴史をどう見ているかの、きわめて忠実な説明になっている。
http://www.mtv.com/news/1717553/noah-epic-gifs/

映画『ノア』の１シーン――蛇のシンボルに吸い込まれるリンゴ摘みのインターカット

インサイダー情報と公的ドメインの情報源によると、エバの“リンゴをかじる”罪は、ルシファーとの性交の体のよい比喩である。

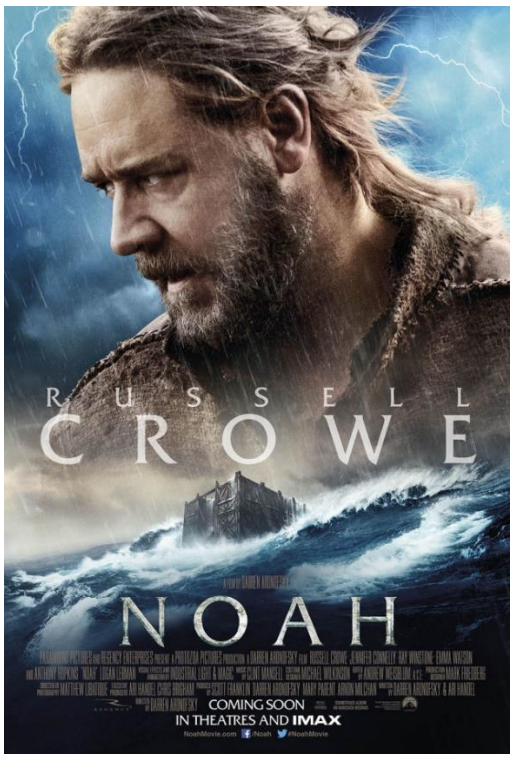
こうした考えは気違いじみているようだが、「陰謀団」が自分たちを地球外人間の末裔と考えていることをひとたび理解すれば、それは多くのことを説明する。

映画 *Noah* を見て私はひどく衝撃を受けた

私はこの情報をすでに得ていたが、まだ公表はしていなかった。すべてのピースがまだつながっていなかった。

気まぐれに、何か私の聞いていたことに関係のあるものを、そこに見つけようと思い、私は新しい *Noah*（『ノア約束の船』）を見る決心をした――私は完全にショックを受けた。

私はこの映画だけについて長い論文を書くことができる。しかしそうするだけの時間的余裕がなかった。



映画 Noah は象徴に満ちみちている

この物語は非常に直接的で、アトランティス大陸を含む、さまざまなインサイダー情報に満ちている――今年 1 億 2,500 万ドル・ラッセル・クロウ映画 *Noah* の話だ。

実はこの映画の始まりでは、すべての人類が一つの大きな陸地に住み、ある破壊された技術文明の余波の中で生きている。

そう言った上で言うが、これは見て面白いものではない――特に、あなたがノアのポジティブな姿を見ようと期待するなら。

クロウの演ずるノアは、暴力的なサイコパスであり――彼が神に背いて蛇の皮を身に着けるときにのみ、罪のあがないを受ける。

創造者の意志の中には、カインの息子・娘をすべて大洪水で滅ぼせというノアへの命令も含まれている。

ノアはこれをあまりに強く信じているので、彼は究極的に、すべての人間が――彼自身の家族や子供たちも含めて――死ななければならないと考える。

ただ Tubal Cain（トバルカイン、カイン 6 世）だけが、人類は生き残るべきで、“地球を従わせる”べきだと主張する。

いくつかのレビューを読んでみよう

2014 年 3 月下旬の、Noah に対するレビューをいくつか下に示すが、すべて明らかに戸惑っている――

（省略）

Tracy Twyman の証言に注目

この記事を書いているときに、私は映画 *Noah* を細かく分析している文章を発見した。それはほとんど場面ごとに詳しく――そしてカインの血統を支持して論じている。
http://tracytwyman.com/noah-film-review-tubal-cain-almost-reaps-all-the-wealth/

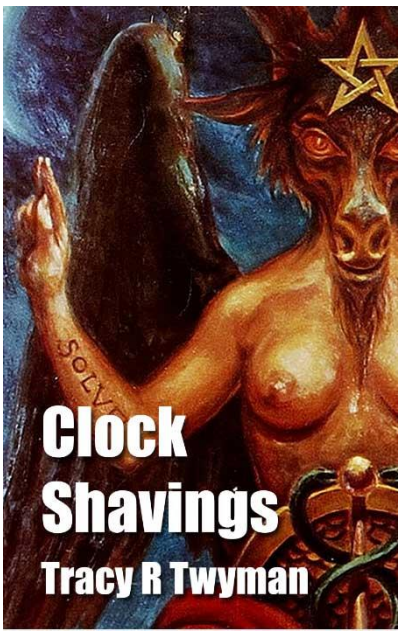
これは私の作り事ではないかと思われないから、そして誰も他にこんな風には考える人はいないかもしれないから、トレーシーの論文を読まれるよう私はお勧めする。

トレーシー・トワイマンは彼女の知っている真理を我々に教えている。そうする権利はあるだろう。我々は言論の自由を尊重し奨励しなければならない。

彼女は同時に警告者のようでもあり、彼女の見る限りの真理を勇敢に述べているが、その過程においてキリスト教徒をひどく怒らせるであろう。

次のようなことを公的に述べるのは、確かに私も気にかかる――

> 私が確かに言えることは、この映画には、台本作者の Darren Aronofsky と Ari Handel が、私がカインとバフォメットとの交霊会で覗き込んだのと同じ隠れた情報のいくつかを、覗き見ているらしいことがわかる、多くの要素が存在するということである。これを私は著書 *Clock Shavings* で論じている。



ひぇー、恐ろしや

これは人をひどく不安にさせる話だ。私はこうした信仰を支持する者ではない。これをここに含めたのは、信仰する人々が確かにいるということを示すためである。

霊的な情報がすべて悪いわけではない。さまざまな愛に満ちた存在がいて、あらゆる文化にポジティブな“啓示宗教”を与えてきた。

これらの言葉のいくつかは、偉大な宗教のテキストとなって、時代を貫いて何百万の人々を鼓舞し、高めてきた。

それを言った上で、私はカインやバフォメットを、ネット上であれこれ論ずるようなことは、決して好まない。しかしこれは個人的好みの問題にすぎない。

我々のすべては、存在の他のレベルにいる他の人々と交信する能力をもっている。それは我々のほとんどが失った基本的な才能である。

我々が探ろうとする人々の方向性が、ポジティブかネガティブかは、我々次第で決まる。

「陰謀団」の最大の詐術の一つは、内なるキリストへの直接のアクセスをすべて遮断してきたこと、そして、そのような夢やビジョンを経験する人を誰彼なく、悪魔化してきたことである。

Tubal Cain（トバルカイン）

フリーメイソンが階級の梯子を昇るときに耳にする、最初の、最も重要な秘密の言葉は、Tubal Cain である。

これが本当は何を意味するかを理解するチャンスを得るためには、あなたは長い道のりを——通常少なくとも 32 階級まで——進まなければならない。

究極的にこれはカインの血統を指すもので、それはまた品の悪いジョークでもある——“two-ball cane”（２つ球のついた棒）は、エバを妊娠させたと彼らが信ずるルシファーの男性器だからである。

"TUBALCAIN"

PASS GRIP OF A MASTER MASON
(HANDSHAKE)

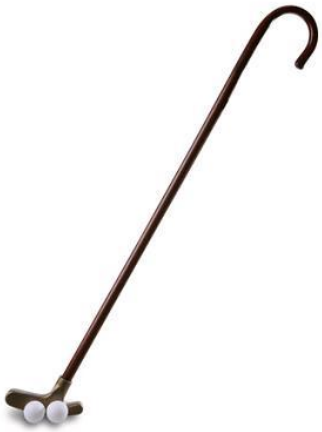
The Mason places his thumb on the space between the second and third knuckles of the fellow Mason's right hand, while the fellow Mason moves his thumb to the corresponding space on the first Masons hand. The thumb is pressed hard between the second and third knuckles of the hands.

Two=Tu
Ball=Bal
Cane=Cain

Two Ball Cane '07
Golf Tournament

Hosted by the Freemasons of
Wallingford Compass Lodge #9
& Cheshire Temple Lodge #16

4th Annual
September 17th, 2007
@ The Wallingford Country Club



メイソンの Two-Ball Cane 指輪

Shriner の 33 階級メイソンの TBC 指輪

エボラが始まってから数週間ずっと、すべてのメディアに公開されている Two-Ball Cane シンボルに注意

私はなぜ、すべてのメディアが、このたった一つのエボラ・ウィルスの画像を使い続けているのか不思議だった。

Two-Ball Cane の絵にきっちり同じではないが、これは明らかに、故意に選ばれたと思えるほどに近接している。

多くの独立したジャーナリストが、エボラは意図的に放出されたと論じている。

その真偽はともかく、「陰謀団」は確かに、ここから引き出せる恐怖を最大限にしようとしているように見える。

それはあまりにも完全なヒステリーに近いもので、まったく馬鹿げてみえる――そしてほとんど誰も乗ってこないようにみえる。

私は過去 3 カ月に数回空港を利用したが、誰もマスクをしたり、その話をしたり、それらしい行動をしている人を見かけなかった。

Two-Ball Cane と 007

Two-Ball Cane はまた、ジェームズ・ボンドのコードネームである 007 として、コード化されている。ボンドは、「陰謀団」のために働くトップレベルのスパイを代表するものだ。

これは、はるかエリザベス女王と John Dee にまで遡る

「陰謀団」の歴史では、最初の“007”は、エリザベス女王（一世）の私的な占星術者ジョン・ディーであった。

次の引用は、「陰謀団」を悪魔とし、そのメンバーをすべて人間以下とするキリスト教徒のもので、これはキリストや他の偉大な霊的教師の教えではないが、そのいくつかの言葉は引用に値する。

引用には若干の編集が加えられている：——

ジョン・ディー、魔術師にして元祖スパイ 007

彼の恐ろしい容貌と衣装は世界に魔法使いの原型を与えた。

何ダースもの物語の魔法使いが、このディーに基づいている——ガンダルフやハリー・ポッター、オズの魔法使いさえ。

彼は、何世紀にも及んで霊的成長を促進した多くの魔術秘密結社の始まりである「薔薇十字会」を結成した。

ジョン・ディー（1527-1608）はイギリスの数学者、教授、天文学者だったが、それらをすべて放棄して、より儲かる仕事“天使のチャネラー”と占星術師を取った

ディーは最終的に、エリザベスの宮廷占星術師となり、すぐ後で彼女のスパイとなった。

謎のスパイ使命とオカルト実践

王権者のスパイとして、ディーはいくつかの謎の使命を遂行した——が、その目的が何であったか今日までほとんど知られていない。

彼はスパイの仕事を楽しみ、念の入った高度な暗号をつくり出した。

こうしたエピソード間の女王との往復書簡で、彼は自分の公的文書に“007”と署名した。スパイ・ジャンルのファンなら誰でもわかるであろうが、これはもう一度使われることになった綽名である。

ジョン・ディーは、特殊な構成の鏡は、太陽から魔法の力を引き寄せ、遠くの星や他の世界にメッセージや物を送ることができると信じていた。

ディーは“天使”からビジョンを、水晶球を用いて受け取ろうとした。

ディーはその魔術的見方のために不幸を招いた

ディーは 1527 年 7 月 13 日、ロンドンの近くで生まれた。彼はケンブリッジのセント・ジョンズ・カレッジに 15 歳で入学した。

自分の研究から彼は、人は魔法を応用することによって、神の知識を得ることができるという理論を開発したが、これは彼を折にふれて、不幸な立場に引き込んだ反論の多い考え方だった。

専門“魔術師”となって初めの頃、ディーは、女王メアリー・チューダー（ブラディ・メアリー）の治世に、魔法で彼女を殺そうとしたかどで逮捕され起訴された。

彼は 1553 年、ハンプトン・コートに投獄され、また“計算した”、つまり異教徒の数学の術を行ったという罪でイングランドで幽閉された。またブラック・マジックを用いたとして起訴された。

1564 年、オカルトの問題を扱った彼の多くの著書の 1 冊、*The Monas Hieroglyphica* が出版された。

「モナス・ヒエログリフィカ」はディーの創造した象形文字であり、彼はこれをオカルト知識の究極のシンボルと考えた。翌年彼は Di Trigono を出版した。

肉体をもたない存在と接触する試み

ディーは 1581 年に、肉体をもたない存在との接触の実験を始めた。それは主として不思議な夢、感情、また彼の家の中の不思議な物音が動機だった。

1582 年 3 月 25 日、彼は、水晶球の霊媒を通じて、霊界と最初の接触をしたと記録している。

これを成し遂げるのにディーは、オカルトや錬金術や水晶魔術などによる長年の努力を要した。

霊界との接触は、残りの生涯の間、ディーの背後からの主たる駆動力となった。

ディーがヨーロッパに行っている間、本国では事態はあまりうまくいっていなかった。

1583 年、多数の暴徒が、サリー州モートレイクにあるディーの家と図書館を襲い、収集した本やオカルト器具や個人の持ち物を破壊した。

この攻撃はおそらく、ディーが魔法使いであるという噂に反応したものだった。

ディーの神学（イシスとオシリス）はフリーメイソンの至る所にある

ジョン・ディーも薔薇十字会もフリーメイソンも、すべて同じことを信じている――すなわち、善意ある“より高い霊的存在たち”が、多くの他次元世界の一つで、ディーやフリーメイソンのような“完成された人間”を助けようと待っている、ということを。

これらは、秘密結社の階層を昇進することによって、自分を完成させたと言われる人々である。

「ディーは、ギリシャの神ヘルメスの、古代の、前キリスト教教義に基づく思想の一派、“ヘルメス・グノーシス主義”の実践者だった。

ヘルメスは実は、もっと古いエジプトの、知識と言葉の神 Thoth（トート、体は人間、頭はトキ）のコピーに過ぎなかった。

この意味で、すべての“ヘルメス・グノーシス主義”は、トートの教えの崇拝とみることができる。

エジプト神話によれば、トートは、イシスやオシリスとともに地球に降りてきて、知識や文明や科学の成果を、エジプト人にもたらした神々の一人である。

1581 年、こうした古代宗教の知識を用いて、ディーは、“より高い存在たち”との交信の一連の試みを始めた。この能力をもった彼のチャネルは、Sir Edward Kelly という人だった。…」

007 とは、エリザベスが宮廷とディーの間の私的通信のために用いた暗証番号だった。

ディーは、彼の手紙のサインとして、2 つの丸（ゼロ）と 7 、つまり 007 を用いた。ディーは、後にイアン・フレミングが、007 ジェームズ・ボンド役のモデルとした人物だった。

［抜き書きここまで］

明らかにディーは結果を得ることができた

ディーは、スペインの「無敵艦隊」を敗退させるのに貢献したと言われる。彼は、大きな嵐がスペインの大艦隊を全滅させるはずだから、英艦隊は動かない方がよいと正確に予測した。

ディー自身が魔法で嵐を起こしたのだと言っている人もある。これは当然、大きな注目を引き寄せた――もしそれが本当なら。

あるインサイダーは私に、ディーは一度ならず二度も、自然の嵐によってスペインの大艦隊を破ることができたのだと言った。

ディーはロック・スターであり、本物の魔法使いだった。彼は権力を得るための考えられないような、新しい手段を発見したのだった。

ひとたび我々が、良い ET（天使）と悪い ET が存在するという考え方を受け入れ、日常生

活にもそれが入ってくると考えるようになると、何が起こったのかを想像することができる。

ひょっとしたらディーは、大英帝国を支持する約束をしたネガティブな地球外グループとの新しい同盟の道をつけたのだが――それには恐ろしい代価を要した、ということかもしれない。

これらの同じ ET グループが、今日「陰謀団」を通じていまだに活躍しているかもしれない――映画 *Oblivion* や *Edge of Tomorrow*、その他多くの情報源が、示唆しているように。

有難いことに、これらの ET たちは、それよりはるかに大多数のポジティブなグループから反対を受け、それはこの地上でも他の場所でも働いている。

彼らは赤十字社で働く人々を撃つことは許されていない

これはこの種の論文一本で扱えるような主題ではない。

非常に重要なことに、ある高位のインサイダーの話によると、悪い ET たちが、たとえどんなに願っても破ることのできないルールがあるという――すなわち、“あなたは赤十字社で働く人たちを撃つことは許されない”というものだ。

これが意味するのは、もしあなたが、私がこのサイトでやっているような仕事をし、私生活において誠実にあなたのメッセージを護るならば、あなたは無事だということである。

これは、ネガティブな者たちが従わなければならない“ザ・ルールズ”の一つである。もしこれを破ろうとすれば、良い者たちが彼らを――強制的に――阻止する十分な許可を得る。

もう一つのより広く知られた真理回線のルールは、彼らは自分が何をしようとしているかを告げねばならない、ということで、そうしないと成功しないのである。

ジョン・ディーは、ほとんど確実にこれを理解していた。それは今日でも大いに使われ続けている、一つのオカルト・テクノロジーである。実は、今ほどそれがはっきり見えた時代は、かつてなかった。

私たちは第 3 部でこれを更に詳しく扱う。

オリンピック 2012 の開会式――女王が 007 とパラシュート降下

インサイダーたちに指摘されたのだが、私は、オリンピックの開会式と閉会式における「陰謀団」の象徴的なしるしをたくさん明らかにしたが、最も重要な部分を、私は見落としていたらしい。
http://divinecosmos.com/index.php/start-here/davids-blog/1074-olympicsilluminati

公的なオリンピック・ユーチューブにある 6 時間半のビデオで、そのすべてを見ることができるが、それは埋め込み不可能になっている。

次のビデオは、起こったことを要約するもので、これは埋め込み可能である:――

http://www.youtube.com/watch?v=mypoKOufwK4

女王に似た俳優が 2012 オリンピック会場にパラシュートで降りてくる

Drudge Report のこの一面見出しに明らかなように、“女王様”がオリンピック会場へ降下する――誰でもない 007 を伴って。

これは全部で 6 時間半かかる、ハリウッドの高質短編映画で、女王とダニエル・クレイグが 007 として登場する。
http://www.youtube.com/watch?v=1AS-dCdYZbo

これを面白いと思ったほとんどの人々は、ここには、より大きなシンボリズムが働いている

とは考えなかった。

あらゆる人々が手を振って迎えた、彼女と 007 が乗ったヘリコプターは、明らかに“落ちた天使たち”の乗っていた宇宙船を表している。

彼らのオリンピック会場への最終的パラシュート降下は、Fallen Angels の fall を意図したものである。

内部のジョーク、そして高度にシンボリックな演出

「陰謀団」内部の人々は、これが何を意味するかをよく知っていたであろう――しかし、それ以外のあらゆる者にとって、それは不可解なままである。

女王自身がひどく操られ、我々が考えるほど、行われていることを彼女は知らなかったかもしれない。

彼女は罠にはまったと感じ、この仕掛けから逃れようと思っていたかもしれない。

もし読者がこのパラシュートの出来事について、もっと写真やビデオやインタービューを見たいと思われるなら、ここ、ここ、ここをご覧になるとよい。
http://www.interaksyon.com/interaktv/video-james-bond-escorts-queen-elizabeth-to-the-london-olympics-opening
http://www.enstarz.com/articles/4649/20120727/olympic-games-opening-ceremony-highlights-queen-elizabeth-makes-spectacular-entrance-with-james-bond-video.htm
http://www.enstarz.com/articles/4649/20120727/olympic-games-opening-ceremony-highlights-queen-elizabeth-makes-spectacular-entrance-with-james-bond-video.htm

Gary Connery, right, the skydiving 'Queen' prepares for his dramatic arrival at the Olympics opening ceremony on Friday night pictured with James Bond double Mark Sutton, middle, in the helicopter en route to the stadium

これはグループの結束（絆）の感覚を与える

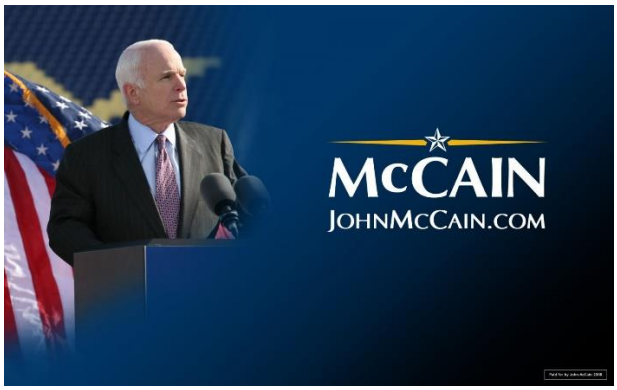
ルシファーは地球外人であり、「陰謀団」メンバーは彼の抑圧された子孫であるという考えは、彼らにグループの結束感と、一般の抑圧者たち――地上の他のあらゆる者たち――に対する一体性の感覚を与える。

彼らは、キリスト教の“神”は自分たち全部の死を願っており、「アダムの種」であるものは残し、そうでない者は一掃しようとしていると教えられている。

これは私の考えでは、大きな誤解である。しかし、多くの情報源によると、それは彼らの内部では、大いなる怒りと憎しみを煽り立てているのだという。

ここに、今年の映画 *Noah* からの、ノアとトバルカインの睨み合いの場面がある。

インサイダーたちはまた、もう一つのサインとして、この前の前の大統領選挙を見るように教えてくれた。



McCain は「カインの息子」を意味する

意図的なデザイン

もし我々が、高度に知的なネガティブな ET たちと交渉するとしたら、彼らは意図的に計画して、対立する宗教哲学をつくり出したのかもしれないと考えてみるのは、魅力的な考えである。

もしローマ帝国とその支持者たちが、キリスト教とともに「陰謀団」をも考案したのだとすれば、その目的は、両グループを互いに対立させることだと十分に考えられる。

彼らの戦略は、“エリート”のために一つの霊的哲学を、“平民”のためにもう一つの正反対の宗教を創ることであろう。

あなたは“エリート”に対しては、彼らは平民の神によって、永遠の地獄の火で焼かれる運

命にあると信じさせる。これによってエリートは平民を大いに怖れる。

次にあなたは、平民に対して、同じことをエリートについて信じさせる——君たちは純粋な悪を体現する者たちだと。

このネガティブな影響力は、エリートに属する人々のことを何とも思っていない。彼らは、必要とならばいつでも、裏切られ犠牲にされる。そこには忠誠というものがない。

「陰謀団」の士気をわずかでも維持するためには、継続的に、大々的に、公的なシンボリズムを見せつけることが必要となる。

レメク（Lamech）もまた 777 年生きた

創世記 4:15 および 4:24 の言葉は、カインの血統と、結果としての復讐という考えを論じている。秘密のサイクル数が、この箇所にコード化されていた。

この箇所はまた、デスメタル・バンド *Avenged Sevenfold* の名前の出所でもある。

聖書のこの暗号化されたデータは、この 7 x77 年という期間が、この「洪水」後の人類の始まりにまで遡る画期的な、原型としての戦争を理解する上で、決定的に重要であることを示唆している。

時と共にますます我々は、あの「洪水」が神話ではなかったことを理解するようになった。それは海面が 300 フィート以上も上昇した、画期的な、世界的出来事のことを言っている。

その余波として、ある新しい人種が、良い者たち——善意ある天使的 ET——によって「種を植え」られ、これが“アダムの種”と我々が呼ぶことのできるものである。

創世記からのもう一つの魅力的な手がかりは、アダムの息子たちと、カインの息子たちの戦いの、この同じサイクル的繰り返しを示すもので、これは創世記 5:28-31 にある。
http://en.wikipedia.org/wiki/Lamech_%28father_of_Noah%29

> 創世記 5:28-31 は、レメクが、ノアの誕生の時 182 歳で、さらにこの後 595 年生きたことを記録し、レメクが死んだときの年齢を、777 歳としている。
> http://tools.wmflabs.org/bibleversefinder/?book=Genesis&verse=5:28-31&src=HE
> http://en.wikipedia.org/wiki/Noah

この戦いはサイクルをなし——宇宙のデザインの基本的な部分である

これらの数字は、この「善と悪」の戦いが多くのサイクルをなして繰り返され、中でも 7 x 77 年サイクルが最も重要であるという事実を、コード化して言っているのかもしれない。

少なくとも 6 件の直接の照応関係が、1400 年代のヨーロッパ史とアメリカ史の間に、7 x77 年後の 9 .11 を中心とする前後に確認することができる。これは我々が『ザ・シンクロニシティ・キー』で明らかにした通りである。

ここでも再び、聖書にこうしたコードが存在することは、善意ある天使的 ET たちのわざかもしれない。

「カインの種」と、イエスの言葉の「アダムの種」について、同じサイクルをコード化することによって、両方の側とも、これらのサイクルの働きが同じであることを暗に示している。

人々と影響力を区別することが重要である

私は、「陰謀団」の人々と、「陰謀団」を通じて働く影響力の間の違いを見分けることが重要だと思っている。

「陰謀団」の中に人々を留めておくのに使われる最大の手段の一つは、もし逃げだしたら地獄に落ちる、したがってそこに留まるのが唯一の希望だ、と教えこむことである。

私は、イエスのそれを含めた偉大な霊的教えは、すべての者が許され受け入れられる、という教えだと固く信じている。

他者に対するどんな罪も許されないことはない——どんなに言語道断な許しがたい罪であっても。

我々は「カルマの法則」を通じて、他者に与えた傷の責任を負わねばならない——「あなたが蒔くものは刈り取らねばならない」——しかしその法の中には許しがある。

ひとたび自分がなしたことをあがない、他者に対して生じた負債を償うならば、我々は再び自分のポジティブな霊的本性を取り戻すのである。